

News Release

平成 19 年 7 月 25 日

岡山大学経済学部・岡山経済研究所との共同研究 平成 18 年度研究報告書 発刊のお知らせ

国立大学法人 岡山大学経済学部
財団法人 岡山経済研究所

< 1. 共同研究について >

- ・平成 18 年度より、岡山大学経済学部と岡山経済研究所は地域の活性化に資する共同研究を実施している。
- ・今般の共同研究は、国立大学法人岡山大学と株式会社中国銀行の連携に関する包括協定（平成 17 年 3 月締結）に依拠している。
- ・平成 18 年度は「産地力の持続メカニズムの探求 ～ジーンズ製販ネットワークのフィールド調査」「地方都市の自立方策に関する調査研究」の 2 テーマについて共同研究を実施した（後者は 9 月頃に発刊予定）。

< 2. 今回の研究報告書 >

- (1) タイトル：『産地力の持続メカニズムの探求』
～ジーンズ製販ネットワークのフィールド調査～
- (2) 執筆者：岡山大学大学院社会科学研究科 准教授 藤井大児
同上 戸前壽夫
岡山経済研究所 研究員（井上治郎、山本智之）

(3) 本書の構成・要旨： < 別紙に記載 >

(4) 発刊日：平成 19 年 7 月

(5) 体裁：A4 版、総頁数 64 ページ

(6) 印刷部数：1,400 部

(6) 配布先：岡山経済研究所の維持会員、および大学関係者等には既に配布済み。
余部は実費（1,050 円）で頒布している。

以上

《 本件に関するお問い合わせ 》 財団法人 岡山経済研究所
岡山市丸の内 1 - 15 - 20
TEL 086 - 234 - 6534
担当 山本、井上

< 構成・要旨 >

- ・ 研究報告書は 3 部構成で展開されている。研究目的は三備地区にまたがるデニム・ジーンズ生産の集積地帯を分析対象として、産地力の持続メカニズムを探ることである。
- ・ 第 1 部では、産業集積論の先行研究を検討した。ポーターの『国の競争優位』にあるとおり、資源の相対的潤沢さに由来する比較優位仮説から一步踏み出して、企業の強い意志に導かれて集積レベルの経済効果が現れるという立場に依拠し、とくに集権的なコントロールがない産地型集積をどのように分析するかを問題にした。これまで産業集積論では個人や企業のネットワークに注目することが多かったが、ここでは新たな視座として<実践コミュニティ>という考え方を導入した。この視座は徒弟制度を念頭に考え出されたもので、個人による試行錯誤とコミュニティ・レベルの協調的学習を重視する立場である。基本的に職人集団という色彩の強い三備地区を分析する上で、有用な視座と言えよう。
- ・ 第 2 部では、デニム・ジーンズの歴史や、三備地区でその生産が開始されてから今日に到るまでの大きな流れを把握した。近年ではプレミアム・ジーンズのブームに助けられて、高付加価値・多品種少量生産、素早い商品投入など、国内生産のメリットが再認識されている。また洗い加工部門の健闘が、他の繊維関連の産地型集積に比較して特徴的である。
- ・ 第 3 部では、まずフィールド調査の結果を報告した。大手メーカーは大バッチ生産を基本としており、脱産地化が顕著である。一方中小・OEM 型メーカーは産地に有する技術基盤を利用した高付加価値・多品種少量生産に特化している。そのジーンズづくりを支えているのは、大手メーカーという顧客を失った従来からの生産基盤であり、これが師弟関係を通じて若手起業者を輩出する母体となっている。また従来からあった振り屋、生地問屋に加えて、これまで狭い範囲で定義されていた個別企業の専門職能が行き場を失った廃業企業などを買い取ったり、新たな顧客開拓のために営業機能を強化したりという形で、とくに川下工程で拡大してきている。いわば多工程化・多能工化が進展しつつある。その結果、ものづくりの企画提案力が増してきている。ただし産地型集積のデメリットとして、企画・デザインの相互模倣の温床となっている点が挙げられる。
- ・ 以上の情報をもとに、産地力の持続メカニズムを試論した。自律的な中小企業経営者らによって構成される産地型集積では相互模倣が不可避免的で、製品の同質化が進展する。一方で彼らは何らかの差別化ポイントを模索し続け、試作品の大量提案によって既存製品の『計画的陳腐化』が促進されている¹。また製品の模倣は必ずしも原型のコピーに終わるわけではなく、各企業の多工程化・多能工化によるものづくり力の強化によって、独自のアレンジが施されているために、模倣製品にも作り手の個性が交じり合っている。こうした各企業の行動が産地全体の製品企画・デザイン力の底上げに貢献している。このような動きは、中小・OEM 型メーカーや産地の専門業者など、産地型集積を構成する個々の企業が繊維・アパレル生産のグローバル化という荒波にもまれながら独自に展開した戦略的アクションを素地として、それらがダイナミックに結び付きながら産地型集積レベルの優位性へと昇華している、その連続的発展の一断面とも呼べるものである。

¹ 計画的陳腐化とは、主に新商品の購買促進を目的として、企業が特定商品のライフサイクルを意図的に短縮すること。